

令和5年度 第2回三木市手話施策推進会議

日 時 令和5年10月20日（金）10:00～12:00

場 所 三木市役所 5階 大会議室

出席者 梶氏（関西国際大学 教授）、山本氏（兵庫県聴覚障害者協会 理事）、八木氏（三木ろうあ協会 会員）、池上氏（三木市登録手話通訳者協会 会長）、坂本氏（三木市社会福祉協議会 所長）、齊藤氏（三木商工会議所 中小企業相談所所長）、川瀬氏（公募）、厚氏（公募）、由富氏（公募）、オブザーバー 田中氏（学校教育課 課長）

欠席者 藤原氏（三木市区長協議会連合会 理事）

事務局 井上健康福祉部長、山本障害福祉課長、増田障害者支援係係長、稲垣設置手話通訳者、嵐田設置手話通訳士

<開会>

<委員交代 説明>

<傍聴希望者報告>

<会長挨拶>

皆さん、おはようございます。ちょっと涼しくなってきましたね。

9月23日、手話言語国際デーになっていましたが、ブルーライトアップ今回も開催しました。三木市もいろいろご協力いただきましてありがとうございました。

おかげさまで兵庫県の方では、33市町65ヶ所で実施することができました。

これは全国でもトップということで、もうちょっとすごく誇りを持っていいのかなと思っております。

さらに手話言語を市民に理解していただくために、図書館とかの展示ですとか、手話の体験など小さなそういうイベントも開催をしましたので一歩前進したかなと思っております。

もう一つこちらの法人の方での行事になるんですけれども、近畿ろうあ者大会が10月1日、明石の方で開催されました。

近畿の各地から聞こえない人、手話の関係者670人ぐらいの方が集まっていただきまして、今回そのときの目玉というのが、よしもとお笑いの新喜劇ありますよね。

それが沖縄の方から劇団アラマンダという方たちがお越しいただきまして、いつもの吉本新喜劇だったら音声だけで表情を見て何とかわかるかなというぐらいなんです。今回は手話と音声と両方でその演者が自ら手話表現をしてくださいましたので、参加された聞こえない方聞こえる方皆さんがともに楽しめる内容になったのかなと思います。そういった声もたくさん聞きました。こういったようなイベントをお笑いの世界の方にも広がっていけばいいかなと思っています。

今回の会議よろしくお願いたします。

資料確認

○事務局

次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

ここからは三木市手話施策推進会議規則第3条第1項に基づき、会長に進行をお願いしたいと思います。

○会長

次第の3報告事項に入ります。令和5年度事業実施状況についての説明を事務局よりお願いします。説明については、担当の方から行います。

<令和5年度事業実施状況 説明>

○会長

事務局より説明が終わりました。皆さん何かご意見ありませんでしょうか？

質問とかございませんでしょうか？

○委員

丁寧な資料とご説明ありがとうございます。

これは報告書の中で目標を達成した、○。目標達成には至ってないが一定の成果があった△という形での評価を出しておられるんですけども、ちょっとこの評価の判断の仕方がよくわかりません。

例えば報告書資料1の2ページにあります、手話啓発に関するポスター募集というところ13名応募で○になっているんですけども、これ目標を達成したという判断をしていいのかというちょっと疑問ですね。

もう少し応募数が多くなるということを目指さないと○がつけられないんじゃないかっていう気がするんです。

それから他のも全部丸がついているけれども、丸というのがどういう判断で成果を達成したと言われているのかよくわからない。例えば市が主催する行事に3ページの8番で、市が主催する行事等に手話通訳者を派遣すると、派遣するということと言えば、どれぐらいの割合で派遣されてるのかとか、何かそういうあたりの目標がなくて、あの評価○とか△とか言われてもちょっとその判断がどうなのかなという気がしますので、いくつも疑問点あるんですけど、全部言っていると大変なそういうところとか、例えば4ページの12番、学校向けの手話講座を実施するとこれもとても先ほどもご説明あったように結構、三木市では進んでいる、いい内容で進んでいると思うんですが、これ小学校全体の中の何%行かせていただいているのか、それからどういう私達の目標として達成できたのかという数とかじゃなくて、成果を測るのにどういうことだったのかなってというのがちょっとみんなよくわからないので、その辺をもう少しわかるように書いていただくと嬉しいなと思います。

あんまりどれもこれもってちょっと答えはいただけないかもしれないんですけどちょっとそういうところを感じましたので何かあれば、その辺補足でご説明いただけますか。

○事務局

目標値が明確に示されていないので達成状況について○か×かの判断がうやむやになっていると、そのようなご指摘あったと思いますおっしゃる通り目標値というものが本資料には、明記されておりませんので、そちらの方を今後は明記していけるように、資料の修正の方を行っていきたいと思います。

本日の資料ですと、この次年度の目標というところがあると思うんです。こちらの方が来年度の資料には目標という形で上がってくるような、そういった資料にしていきたいと思います。

ただですねちょっと目標が、ぼやけてるところがございますので先ほど委員が言われたように数値目標、数字を示した上での目標を提示できるように、今後さらに検討していきたいと思いますので本日はちょっと示せてない部分が非常に多いんですけども、数値目標まで示したものを皆さんにご審議いただき、来年度の事業に反映していけたらなと今考えております。

○会長

他にご意見ありますでしょうか？

もしご意見ないようでしたら次に進ませていただきたいと思います。

それでは協議事項令和6年度事業実施計画案について事務局より説明をお願いします。

<令和6年度事業実施計画案 説明>

○会長

事務局からの説明は終わりましたけれども、これについてご質問等ありましたら願いいいたします。

○委員

これ意見というよりお願いなんですけれども、昨年令和5年度には⑪コミュニケーションボードっていうのがございまして、私も広報やあるいは秘書課、秘書室からの発行を見ていろいろいいのができたなと思っていたんですけども、令和6年からは、何か聞いてますね。

これ、コミュニケーションボードはこれで終わりということですか？それとも、もっともっと蓄積して、一般市民で手話のできない人も使いやすいように工夫するとか何かお考えでしょうか？以上です。

○事務局

現在コミュニケーションボードの作成という目標であったので、作成に関しては、県の方が作られているということなので、広報活動ですね、そのコミュニケーションボードを活用していただくように、市の広報であったりSNSであったりという発信は来年度も引き続き行っていく予定です。

○委員

今ご意見あったのにお答えをいただきましたけど、私もコミュニケーションボードのことが全然載ってないなと思っていたんですが、これ今のお返事では、各店舗とかそういうところがホームページから取ってくださいという活用方法という意味ですか。

○事務局

現在ですね第1回的时候にコミュニケーションボードについては説明の方をさせていただいたんですけども、既に利用できるものが兵庫県が作成したものを全県向けにご利用くださいと配布の方がされてございます。統一された内容のものを私どもとしてホームページ等に掲載をいたしまして広く利用を促進啓発しているところでございます。そういったこともあり、そちらの方をご利用いただきたいという説明でございました。

○委員

それでは別に三木のこういう手話言語条例に則った政策ということができないわけですよ。

そういうやり方ではなくてやっぱりコミュニケーションボード自体を、その県を使うなりしてもいいけれども実際に作ったものをラミネートして、聞こえる方が行くような店舗にお配りするぐらいのところまでやらないと言語条例としてはちょっと実施内容としては全然弱いなと思っています。

ホームページにあるので使ってくださいというのは私はあんまり効果がないと思いますので、その辺はいかがでしょう。

○事務局

はい過去に実際作ったものを各施設等に置いてくださいとお願いに行ったこともありますが、既に自社のものを持たれている会社もございまして自分たちで作って

ますんで結構ですよというような形で断られた経験もございまして、こちらから押し付けというわけにもいきませんので、どなたでもご利用できますよと、お店の方向けにご利用いただけますという形で周知させていただいている部分もございまして、もちろん事業者様だけではなくてですね、聞こえない方とコミュニケーションを取られる方々でも利用できるような形のものも掲載しておりますので、そちらの方をご利用くださいという説明をさせていただいております。

ですので全くこちらから営業をかけていないということではないのでご了承いただきたいと思います。

○委員

はい、そういうふう積極的に進めておられる事業所があるというのはとてもいいことですし、それはもちろんそれをお使いいただくのはいいんですけども、やっぱり市の方がただ、PRをしますこういうのがありますというお知らせだけではやっぱり具体的に進んでいかないんじゃないかというふうに思いますので、ぜひその辺は再考していただきたいなと思います。

それからもう一点この重要課題のところやっぱり手話奉仕員養成とか、手話通訳者養成ということで重要だというふうにお考えいただいているのはとても大事なことだと思っています。そう言われる割には回数が少ないなと。

例えば手話の読み語りなんていうのはものすごく難しいんですよね。ただ手話ができるじゃなくて、非常に難しいものなので、これをただサークルで単語手話でやりますということではとても楽しめるものにならないんです。

こういうのは勉強しないと本当に手話で絵本を読むという楽しみをやることができなないので、育成とか支援とか言われるのが年に1回ではちょっととても追いつかないなというふうに思いますし、登録通訳者の技術向上研修も年に3回なんていうのは足りないなと思います。

この辺をもう少し回数を増やさないといけないと思いますというのは、あの養成ももちろん大事ですし、もっと増やして欲しいんですけど、先ほどの令和5年の報告の中で、手話奉仕員、手話通訳者養成、要約筆記の登録数を増やすという目標で、次年度

はそれぞれ1名ずつと、手話通訳1要約筆記1を増やすという目標なのですが、これ現状の手話通訳者はもう70以上の人が何人もいるわけですね。

17人の通訳者の中で、そうするともう、いずれみんな動けなくなるというのが目の前にあるわけです。

それなのに、通訳養成が1名とか2名とか言われると、ちょっと不安を感じてしまうんです。

もう少しここは力を入れていかないと、本当に通訳者が足りなくなるという不安があるので、ぜひこの辺の養成には力を入れてると言われるならばもう少し回数を増やしていただきたいなと思います。

○事務局

ご意見ありがとうございました。

コミュニケーションボードの普及に関しては、可能な範囲で事業者様に周知の方をさらにこちらの方が営業もかけていきたいなと考えます。そういった意味で、今日は商工会議所の斎藤様、来られているんですけども、何かそういった面で事業者様に普及する方法で何かご協力いただけるようなことなど何かアドバイス等あればいただけたらと思うんですが。

○委員

普及啓発ということで、今市の方からいろいろ会員企業さんの方に情報提供ということで、会報を送る際に同封サービスっていうのをやっているんですけども、そちらに資料と一緒に会報に同封して送るっていうことしか今はできてない状況ではありますけれども、そういう機会を捉えて市の方から情報提供いただきましたら、周知するっていうのは、その会報に同封してとか、いろんな集まりがあるところに情報提供するというのはできますので、提供いただきましたら、できるかなとは思っております。

○事務局

ありがとうございます。市内の商工会議所様であるとか、あと商工課もございますのでそういったところと連携を密にとりながら、そういったところの周知や啓発の方を引き続き行っていきたいと思います。

講座のですね、手話通訳者の養成の件なんですけれども、こちら重点政策ということで位置づけさせていただいたのは私もですね委員様同様、同じような課題をあるなということで危惧してございます。

といたしますのも、現在、こちらの養成講座受講生も、だんだんと減ってきております。

なおかつ、手話通訳をされるレベルもあると思うんですけれども、本当に耳の聞こえない方と流暢に会話ができるようにまでできるような、手話の技術を持たれる方というのは、もう1日2日練習したようなものでできるようなものではないと考えております。

1年間、2年間3年間通して勉強していただいて、現場の経験もたくさん積んでいただかないとより高度なものにはなっていないのかなと考えてございます。そういった意味で、やはりニーズやってみたいとかそういったことに携わってみたい、そういう方々を育てていくというのは本当に難しいことだと考えております。

行政がやってくださいというから私やりますってやってくれるというのはなかなかおらへんのかなというのが実情やと思います。

そういった意味も込めて、やはり最終的に耳の聞こえない方々のために、レベルの高い、手話通訳をできる方を育てていくという目標は持つとるんですけれども、やはり裾野を広げる手話通訳に興味を持っていただく、そういう人材を増やしていくということがまず第1の課題と思っております。

ですので、最終的にはやはり委員様言われたように技術を持たれた方々をたくさん育てていくそういった研修をたくさん増やしていくということが大事だと考えておりますが、まずは手話に興味を持っていただく。手話の通訳者になることを選択していただく、そういうような裾野を広げる方をしっかりとしていってですね、三木市の今後の手話施策というところに更なる起用をしていっていただきたいなと考えておりますので、なかなか高齢になっているというのもありますので、今、最前線で頑張られている方々からすると今後の事で心配になるのは非常にわかるとるんですけれども、やはり次の世代、そういったものを育てていくというところに力を注いで、こういった手話施策が持続可能で続いていく、そういったことを目指して行政としては頑張っていきたいなと思っておりますので、その辺りも少しご了承いただければと思います。

○事務局

今担当の方からの話もあります。これ本当に私障害福祉課長をさせていただいたときにも同じような話でやっぱり永遠の課題ではあると思います。先ほど来年度の施策についての説明をしたときに、例えばその中ならば補修する講座の開催について、土曜日の午後に開催をしてみよう。

これは若い人に来てほしいということで平日の夜やったらやっぱりちょっと難しいよねっていう考えから、土曜日の午後学生さん、私実は高校1年生のときに三木市の手話の講座を勉強したことがあるんです。それはちょっと平日の夜やったんですけどやはりそれぐらいの年齢の人の方が多分ずっと覚えられるかなって思うのでそういう意味で、平日の夜っていうのは今も難しいから担当は土曜日の午後っていうことで来年は1回やってみたいっていうことで取り組もうとしています。要約筆記も手話もですけど例えばですけど、いろんな市の行事で手話通訳をつけたり要約筆記が行事というか例えば講演会とか成人式もそうですけどもそういうところで手話通訳や要約筆記の方に来ていただいています。その中で例えばいろいろ要約筆記でしたら、最初にプロジェクターというか、画面があるところで、これまでここ何年間かはこういうことやってますよというPRのね、言葉をちょっと入れてもらったりというのも試してもらったかなと今もやってくれているんですかね。あなたも取り組みませんかみたいなそういうちょっと募集であったりとかっていうのももしかしたらもっと積極的にはできるかもしれないなと思います。会議が始まる前に、もう既にボードがあるんですよ、皆さんご存知かと思います。そこへちょっと商業的に例えばそういうお誘いのメッセージを入れていくとかっていうのも、もしかしたらできないかなとちょっと私はこれは勝手な思いですけど、やっていくことで、若い人だけじゃなくて、いろんな人に知っていただくことを手話言語であったり、聴覚に障がいのある人のことを知っていただくきっかけになればいいかなと思ってますので様々な今回の広報三木もそうです。これは本当に市民の自画自賛とはあれですけど、私もよくできるとみんな作ってくれたなというふうに正直思ってるんです。こういう形で市民の方に啓発したり、それからさっきおっしゃったように若い人たちに手話しませんかとか要約筆記のこと勉強しませんかっていうのも広めていけたらいいかなと本当に担い手をつくるということは課題ではありますけどもそういうようなことを一つ一つ何か取り組むことで少しでもこれに取り組もうという方が増えたらいいなと思ってますのでまたその辺りの担当者であったり皆さんのご意見をいただけて、何か取り組めることがあったらまた言っていたらなと思います。

○委員

先ほどお話がありましたコミュニケーションボードの件ですけれども、12月には障害者週間もございます。

それでそのときに手話それから、要約筆記のブースがございまして、一般の方あるいは障がい者の方といろいろお話するんですが、もし予算が許せばこれ何枚かいただけたら、話のきっかけとしてこういうのがありますよ。あるいは市の指定避難場所にはこういうのがありますよと言って欲しいな。三木市の危機管理課の所管と言うたら、できたらこれいただいたら配れるなど。

12月に予算が許せばいいいただきたいとお願いです。これは、ご検討お願いします。

○事務局

はい対応可能ですのでそのようにさせていただきたいと思います。

ありがとうございます。

○委員

まず感想でこれは本当にいいなと思います。

はい委員さんも出ておられますし、はい、稲垣さんも出ておられますし、はいそれからこれも何か写真があって資料2ちょっとわかりやすくなってこれってここだけで配るものなんですかね。

なんかどっかにポンと置いといたら、いただけるのか。

○事務局

ホームページの方で資料は公開しています。

○委員

なんか図書館行ったついでに見たりとかね、何気なく何か触れる機会もあればいいなとこれはちょっと感想の部分で。

先ほど出ていました養成する通訳者っていろいろたくさん行事があって、ご報告の中に小学校のときに手話の講座を受けて、それがとても印象に残って、高校生の方でしたっけ。

次に繋がる。それはやっぱり小学生中学生にこういう活動をしてきたまいた芽が少しでも出かけて、とてもいいなって思ったんです。何が言いたいか小中学校にこういう講座をします。市民向けのこういう講座があります。とても専門者向けの講座がありますって一応何段階かあるんですよ。

これを繋ぐような取り組みというか、間が足りなかったら間をつくらんとあかんし、機会が開き過ぎるんだったら空きすぎないようにどっかに放り込んで講座をまたつくらんとあかんしバラバラで今、行っているやつが、長い目で見たらこう繋がるようなそういう動線を引こうとする、何かそんな計画が企みが、あるいはええなと思ったのが一つです。せっかくやってるのがまた生きるやろなって先ほどの報告で特に思いました高校生の方のとてもなんか嬉しいというか。

それから養成に関することなんですけど、

僕とこの職場に、USJを読み上げ蘇らせた責任者がおられるんです。

職員というか教員で、お話をいろいろ聞くんですけども、ターゲットがはっきりしてるんですね。

この人をターゲットとして考えたら、その人に繋がるような情報を正しく情報が入ってこっちに向けるようなそういう作戦をどんどん入れはるんです。そうやって、多分USJをよみがえらせはったんやなって。その発想でいくと、キーワードとして進み、さっきの高校生もそうですし、さっき井上部長が私は高校生のときって、この冊子の中には委員さんが高校生のおきに行って、いろいろ自分で判断したり考えたり、小中のときは何となく与えられて興味を持ってそこが心の中に入るとこなんでしょけど、高校生でいくと、大学生もそうかもわかりませんが、主体的に何かチャレンジしてみようかなというそういう年齢やし、高校生を正しくターゲットにして、高校生が入りやすいような高校へ行って何かね活動、要するにおいでよっちゅう話ですよ。高校生がこっちへ向いてきやすいような環境設定や仕掛けとか、そういうターゲットを決めてしまうってそれこそまたこの事業の中に、この枠の中で入れられると思うんですが、チャレンジしてみてもはどうかになって。

それからすぐには効果は出ないでしょうけども必ず何年か後にはまたは100人、ターゲットに対して発信したけど100人は答えへんかもわからんけど、2人3人を20人は答えるかもわからんのですよね。そういうもう具体的な作戦を動きで取るのもいいのかなって来たらしいなとか土曜日はいいなはもちろんいいんですけども、あんたらもおいでよって、そういうことを思いました。

それから評価のところでは次または何かありますけど数値目標もとても大切ですが、プラス質的なね、例えばこの冊子の中に15ページにアンケートとか感想とか以前もこの会議で小学生や中学生の受けた講座というか研修を受けた感想なんかをどんどん外へ保護者だけじゃなくてね出していったらええなとプライバシーの問題はちょっと置いておきまして、そういう数値では表せない。でも啓発というか理解が進んでると興味を持っているというものを、しっかりと出していく。もちろん目標設定の中にそういう質的な変化も狙っていくというそんなもあってもいいのかなって思いました。

○事務局

はい、ありがとうございます。大きく2点、ターゲットを絞った養成に結びつけるような施策を考えていかなきゃ考えてみてはどうか。さらには数値目標だけでなく、いわゆる数字じゃなくて何をもちたしたか、その事業が何をもちたしてきたかといういわゆるアウトカムやつですかね、そういったものも指標として入れていってはいかがか。

その手法として、実際当事者にアンケートであるとか、感想を聞いてそういうものを掲載してはどうか。そのような内容やったと思います。

まず一点目のターゲットを絞るということは非常に大事なことかなと思います。先ほどの説明の中でもやはり高校生のときにやったのがすごく印象的でしたよと、そういうようなのがあればやはりそこがターゲットになってくるかなということもありますので、そのあたりをしっかりとターゲット分析をしてそこへ訴求していくような施策を打てれば、より効果的になるのかなと思います。これはもう雑談で事務局の笑い話にはなるんですけども、少し手話を使った劇とかしてみたらどうかとか、身体表現ですよね。手話も一つの身体表現の一つだとは思いますが、高校生の例えば演劇部とかね、そういったところへ働きかけてみて、手話を使って何か題材しませんかとか、そういう働きかけていうのはできるのかなとは思って、いろんな案をちょっと事務局の方でも考えさせていただいてアプローチして、手話に興味を持っていただいて、中級コース上級コースへと進んでいけるような道筋を行政として用意できたらなというのも考えました。

ありがとうございます。

アンケートですとか、感想の部分というのは、やはりやりっぱなしってのはよくないと思いますので実際に手話施策の方推進しながら、当事者の方々に少しアンケートなど、そういったものも入れまして来年以降にはやはりそういった何をもたらしたかと、そういった部分の指標も入れてご報告できたらなと思います。ご意見どうもありがとうございます。

○委員

私高校2年生の息子と、小学校一年生の娘がいます。

息子の高校には、手話で話をする学生がいる。

その子の友達も同じ学校に来ていて、とても、なんか楽しそうに話をしている風景を毎日見ている、手話習いたいなって言うんです。

そういうことなんやろなって高校生のことで考えられるのであれば、そういうことなんだろうなと思っています。

その環境に恵まれた息子はラッキーだなと思うんですけども、必ずそういう場所ばかりじゃないのは、もう前提としておいて、何が本人を主体的に変えていくのかっていうのは、高校生のやっぱり思考軸で物を見て考えていくことが必要かなと思います。

やっぱり進路をこれから考えていく世代なので、今度ちょっと下世話かもしれないですけど、手話通訳士になったら給料なんぼだその仕事は、どんな仕事っていうのも私は何か今皆さんの本当に基本理念にもこの言語条例の基本理念にも書いてますけども、本当に聞こえづらい方々聞こえない方々が安心して豊かに暮らすことができるというのは本当に専門的な通訳を求められることっていうこともすごくあると思うんです。

それを守るには、やはりきっちりと、通訳士も保証され、安全安心に暮らせる支えになる人もしっかり押さえていく必要っていうのはあると思いますし、一方でその挨拶や、ちょっとご近所での出会いであったり友人との会話で手話ができるっていうような方々を増やしていくことも大事だと思うので、梶先生がおっしゃっていた、ターゲットを絞るっていうことってすごく重要だっていうことは、私も共感できます。

下の娘は小学校一年生なんですけども、今も音楽で手話歌がなんかもう主流でやっています。

絶対そんな手話はおかしいねって見てて思うんですけど、手もブレブレで怪しいとか思うんですけど、なんかやっぱり教材の中で入ってきている現状があるんですよね。なので、やっぱりすごくなにか世の中変わってきつつあって、なんかそれ、娘もやっぱり手話をすることに喜びを感じてますし、なんかそれがもう身振り手振りになってるなって思うこともあるんですけど、でもやっぱりそういう学校現場がある上で何を載せていくのかっていうようなところも、これからは大事なのかなと思うので、ぜひ普及先、ターゲット先の思考軸とか環境というのをちゃんと押さえながら進めていくということがすごく大事かなというふうに、すいません感想になっていたら申し訳ないんですけども、思いました。

○委員

今、高校生をターゲットという話でそれいいなと思いながら考えてたんですけども最近小学校の手話講座に行くと、自分の名前を指文字でしてくれる子供が増えてるとかあるんですよね。

これどうしてかなって言ったら、みんな同じ冊子を持ってるんですよね。あれは市が配られたのかなちょっとわかりませんが、あれを持ってみんながこれ手話でどうするのかというような質問が出てくるようになってきた。

これやっぱりちょっとお金をかけてきちんと同じ資料をみんなに配る高校生だけならそんなに配れるかどうかわかりませんが、小学校ほど多く枚数いらなかななんて思いますけど、こちらが呼びかけて、興味を持ってきてくださいではなくてなんか全員にバンとお配りをして、それでみんなが同じ話題で話をしてくれて、そんな中から本当にやろうかなということが出てくるというような、そういう方がやりやすいんじゃないかなと思うので、小学校でそういうふうにやってる例を見て、みんなが盛り上がって手話を覚えようとかやってるので、同じように高校でもちょっとお金をかけるのかどうかというふうなあれはありますけど少々そういうことに力を入れてもらわないと、次に繋がるのがなかなかなので今の話でいくと、高校生にある程度その手話ということとか聴覚障がい者とか手話通訳というようなものをまとめた何かパンフレットみたいなものを配って、自分たちで興味を持てば、参加してみようかな、そういうような形にならないものかと。

ターゲットを絞っていくのならそのターゲットにきちんと届くように施策を進めていただきたいなと思います。

それからもうさっきおっしゃった、避難所にコミュニケーションボードを置くっていうのは私もぜひしていただきたいと思うんです。

避難所がないからダウンロードして印刷して持ってってくださいなんて言えないので、これはもうぜひコミュニケーションボードは全ての避難所に置くということはまずしていただきたいと思います。

○事務局

まずあの一点私の方から指定避難所につきまして全てコミュニケーションボードの設置を完了しておりますのでご報告いたします。

少し学校の取り組みの内容でのご提案も多かったと思いますので今後のちょっと手話施策、子供たちにどういった意味で手話に触れ合っていただこうかというところで、ちょっと今、今日は田中先生来ていただいていますので、何かちょっと学校で、このようなことも検討できそうみたいなアドバイス等あればちょっとご意見いただければと思うんです。

○オブザーバー

皆様からご意見出てますように、子供たちがどういう体験をするか、どういう出会いをするか、子供たちの未来ってすごく影響を及ぼされていると思います。

今小学校では講座を幅広く行っていただき、そこでかなりの小学生が手話に触れ合っ、こういう言語が大事なんやということを学んで子供たちはそれぞれ思うところはある、その施策に本当にありがたいなと思っています。

そして次、高校生に行くまでに中学生がありますので、例えばトライやるウィークを活用して、トライやるウィークで手話に携わる何か制作のお手伝いをさせていただくとか、そういう方法もあるかな。決して全員じゃなくても、委員の息子さんのように、偶然そのような機会を得たことは、何かの縁やと思いますのでそういう経験をトライやるでさせてもらったし、生徒たちはすごくそれは偶然ですけど、縁をいただいたということなので、それで何かでもそちらの道をちょっと考える子が出てきたらいいかなと思います。

高校生もいろんなちょっとしたきっかけで本当に進路って変わっていきますのでそういう体験する機会が本当に増えれば増えるほどそういう道を考える子供たちが増えていくんじゃないかなと、皆さんのご意見聞きながら思いました。

○事務局

非常に活発なご意見をいただき、今、来年度、令和6年度の事業予定案として、ご提案した部分についていろんなご意見、ぜひ反映していきたいなと思います。

また今年度については2回ということで手話施策のこちらの会議は今年度で終わりますが、また来年度のこういった事業のところでご提案した分また聞いていきたいなと思います。

それと合わせてですね、障害者差別解消法こちらの方がですね、令和6年4月から、合理的配慮の提供が事業者の方にも義務化されるこういった改正がされます。

商工会議所にお答えいただいたんですけれども、差別解消のこの合理的配慮の提供の義務化ということについて、事業者の方が努力義務から義務化されたということでこういったあの厚労省が作ったそのパンフレットを既に配布する準備を終えましてお願いしているところでございます。これについては、一度行政がこういったご案内をして終わりではないですので、また来年度改めてこの施行ということにも合わせまして、こういった啓発もする中でコミュニケーションボード、こういったところの活用についても明記した上でいろんな事業者皆さんがこういった障害者差別解消に向けての取り組みを実施していただけるようこちらも取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○会長

ご意見よろしいでしょうか？私も9月23日のイベントの話在先ほどしましたけれども、兵庫県として手話を県民に身近に理解していただくためにイベントを行いました。

イベント計画の中で、たくさんの方にご協力いただきましたが自然に歩いてる方が何があるのかなというふうに興味を抱いていただけた。

面白そうだなというふうに皆さんこれをきっかけに興味を持っていただきました。

東遊園地の方でそのようなイベントもしました。

三宮のあの公園のところですね。そこにいた若い人たちが、ゆっくりしているところ私達がイベントの準備をしていたら何をしているんだろうというふうに皆さん興味を持っていただいたという状況がありました。

通訳を通して声で皆さんに伝えることによってそれを聞いて通りがかりの方にも納得ご理解を増やすことができました。

簡単な手話ですけれども手話をしながら劇をしました。

子供たちも若い人たちも皆さん集まっていたいただき興味津々に手話を見てもらいました。

いいきっかけになったかなというふうに思っています。

皆さんがこちらの方へ興味を持っていただく機会がそのようにありましたのでお伝えしました。

他にご意見ないようでしたら次に進めてよろしいでしょうか？

手話言語のポスターについては、そちらでお願いしてよろしいですか。

○事務局

それでは次第の第5の市内小中学校の手話啓発ポスターの選考を行いたいと思います。

・ポスター選考

最優秀賞は、緑が丘中学校1年生の山下咲良さんに決定いたしました。

そして、小学生低学年の部の優秀賞として、豊地小学校3年生の林美緒さんです。

そして中学生の部は三木中学校1年生の松井友菜さんに決定いたしました。

皆様、選考ありがとうございました。

選ばれた方には障がい者週間で展示させていただくことをご案内するとともに、表彰状の方送らせていただきます。また参加賞としてクリアファイルの方を皆さんにお配りさせていただきます。ありがとうございました。

本日の次第につきましては全て終了いたしました。

閉会の挨拶の方を梶副会長、よろしく願いいたします。

○副会長

皆さん、お忙しい中、限られた時間ですがいっぱいご意見をいただきましてありがとうございました。

この条例を作る作業の中で手話というのに要するにターゲットを絞っているわけですけど話し合いの中には三木の皆様だけじゃなくて世界かもわかりませんが、1人1人が大切にされて1人1人がその個性に応じた豊かな暮らしができたらなってそのきっかけとして手話ということからスタートするというそんな話が多分あったと思うんですけども、今日いろんな事業のご報告を聞いて着実に一つ一つ進んでるんやなというこ

とと、671人の小・中学生の子供たちが僕手話があまりできないんですが、超えていったなとすぐに越えられますけど、はい、僕はそんな頼もしいことも感じたりしました。今回2回目ということで今年度これがあるわけですがけれども、引き続きまたそれぞれの立場でぜひお力をいただけますようによろしくお願ひします以上簡単ですがご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。